

NS-PA41

(NS-F40 + NS-C40 + NS-B40 + NS-SW050)

スピーカーパッケージ



取扱説明書

保証書別添付

ご使用前に本説明書の「安全上のご注意」(2 ページ)を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



- 点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造によりお客さまがけがをしたり機器が故障したりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 本製品は一般家庭向けの製品です。生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される用途に使用しないでください。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



禁止

電源コードが破損するようなことをしな

- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 無理に曲げたり、加工しない
- 傷つけない
- 重いものをのせない

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



禁止

落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。

感電の原因になります。



必ず実行

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

火災または感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



必ず実行

雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災や故障の原因になります。



必ず実行

長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

分解禁止



禁止

この機器を分解したり改造したりしない。

火災、感電、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意



禁止

この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。

感電や故障の原因になります。

火に注意



禁止

この機器の近くで、火気を使用しない。
火災の原因になります。

設置



必ず実行

取扱説明書で指示された方法で組み立てて設置する。
落下や転倒して、けがや破損の原因になります。



必ず実行

設置後は必ず安全性を確認する。定期的に安全点検を実施する。
落下や転倒して、けがをする可能性があります。



必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。
ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

お手入れ



禁止

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しない。
可燃性ガスが本機の内部に留まり、爆発や火災が発生するおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。乾電池を使用している場合は、乾電池をこの機器から抜く。下記のような異常が発生した場合、すぐにアンプやレシーバーの電源を切る。

- 電源コード/プラグが傷んだ場合
- 機器から異常なおいや煙が出た場合
- 機器の内部に異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 機器に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



必ず実行

この機器を落としたり、強い衝撃を与えたりしないように注意する。落とすなどして破損したおそれのある場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意 「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。
火災、感電、やけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所に置かない。
この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。



禁止

サブウーファーのポート(側面の穴)をふさがない。
内部の温度上昇を防ぐため、サブウーファーの側面にはポートがあります。機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。



禁止

この機器を設置する際は、

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
- 天面以外を上にして設置しない。
- 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。本機の周囲に上 20cm、左右 20cm、背面 20cm 以上のスペースを確保してください。



禁止

天面以外を上にして設置しない。
故障や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所、油煙や湯気の多い場所に設置しない。
故障の原因になります。



禁止

地震など災害が発生した場合はこの機器に近づかない。

この機器が転倒または落下して、けがの原因になります。



必ず実行

この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。

ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

聴覚障害



禁止

大きな音量で長時間この機器を使用しない。

聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。



必ず実行

• ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。

• 電源を入れたり切ったりする前に、必ずこの機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをする前に、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になることがあります。

取り扱い



禁止

サブウーファースのポートに手や指を入れない。

けがの原因になります。



禁止

サブウーファースのポートから金属や紙片などの異物を入れない。

火災、感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



禁止

以下のことをしない。

- この機器の上に乗る。
- この機器の上に重いものを載せる。
- この機器を重ねて置く。
- ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加える。
- この機器に寄りかかる。

けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。



禁止

接続されたケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、機器が破損したり、けがをしたりする原因になります。



禁止

音がひずんだ状態ではこの機器を使用しない。

機器が発熱し、火災の原因になることがあります。



必ず実行

この機器と組み合わせて使うアンプやレシーバーを選ぶとき、アンプやレシーバーの出力レベルがこの機器の許容入力レベル(14ページ参照)以下であることを確認する。

出力レベルが許容入力レベルを超えていると、火災や故障の原因になります。

注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、お守りいただく内容です。

電源 / 電源コード

この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

設置

テレビやラジオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。

直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。

接続

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。

取り扱い

この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色/変質する原因になります。

機器の周囲温度が極端に変化して(機器の移動時や急激な冷暖房下など)、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

お手入れ

極端に温湿度が変化すると、この機器表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。

手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になります。

スピーカー

スピーカーを並列接続する場合は、必ずアンプの規定負荷インピーダンスの範囲内(14ページ参照)で接続してください。アンプの故障の原因になります。

スピーカーユニットには触れないようにしてください。スピーカーユニットが破損する原因になります。

お知らせ

製品に搭載されている機能とデータに関するお知らせ

- この製品は、日本国内専用です。
- この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。
- スピーカーに左右の指定はありません。
- バスレフポートから空気が吹き出す場合がありますが、この機器の故障ではありません。特に、低音成分の多い音を出力する場合に起こります。

取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

サブウーファーのお手入れのしかた

キャビネットを美しく保つため、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

キャビネットに水気のあるものやアルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤等をかけたり、化学ぞうきんで拭いたり、ビニール系のシートなどをのせないようにしてください。色がはげたり貼り付いたりします。

本機のスピーカーには磁石が使われています。磁気の影響を受けるもの(ブラウン管テレビ、時計、キャッシュカード、フロッピーディスクなど)を本機の上やそばに置かないようにしてください。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

同梱品の確認.....	6
フロントスピーカーの組み立て.....	6
スピーカーの設置.....	8
フロント/センター/	
サラウンドスピーカーの設置.....	8
サブウーファーの設置.....	8
スピーカーを壁に掛ける場合.....	9
接続のしかた.....	10
接続図.....	10
電源コードの接続.....	11

サブウーファーの使いかた.....	12
音量バランスの調節.....	12
ADVANCED YAMAHA ACTIVE	
SERVOTECHNOLOGY II.....	13
Twisted Flare Port.....	13
困ったときは.....	14
仕様.....	14

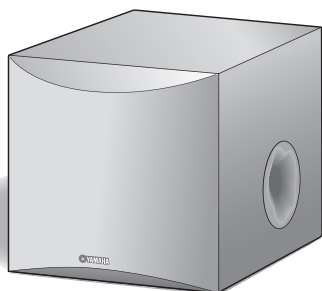
同梱品の確認

- 同梱品がすべてそろっているか、確認してください。
- ベースを梱包箱から取り出す際は、落とさないようご注意ください。

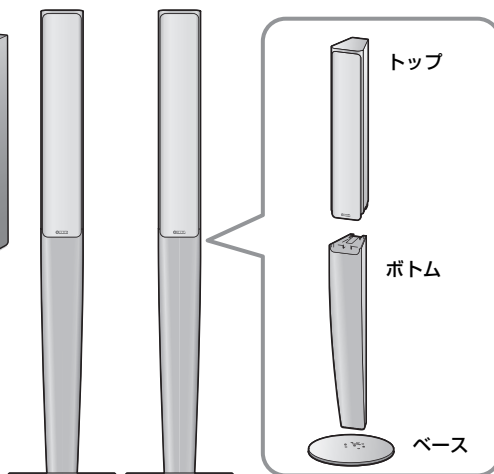
サブウーファー (NS-SW050 × 1 台)

フロントスピーカー (NS-F40 × 2 台)

サラウンドスピーカー
(NS-B40 × 2 台)



センタースピーカー
(NS-C40 × 1 台)

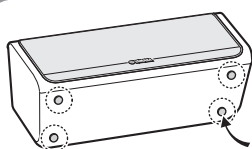


滑り止めパッド (24 個 × 1 セット)

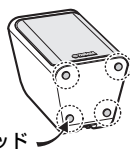
センター、サラウンドスピーカー用

(予備 12 個を含む)

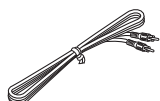
固い床や棚の上に直接スピーカーを置く場合は、左図のように付属の滑り止めパッドをスピーカー底面の 4 隅に貼り付けてください。振動によりスピーカーが滑るのを防ぎます。



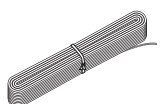
滑り止めパッド



ネジ (10 個)
フロントスピーカー用



サブウーファー用ピンケーブル
(5m × 1 本)



スピーカーケーブル (24.5m × 1 本)
フロント、センター、サラウンドスピーカー用に 5 本に切ってお使いください。
切断時にけがをしないようご注意ください。

フロントスピーカーの組み立て

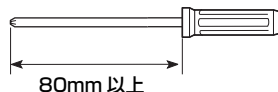


注意 組み立て前に必ずお読みください

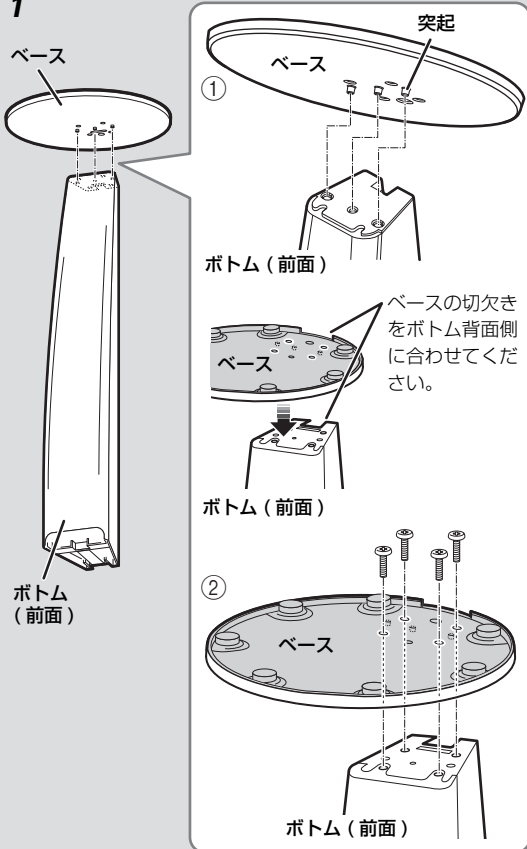
- 組み立ては、平らな場所を選び、じゅうたんなど柔らかいものの上で行なってください。
- 梱包箱からの取り出しや組み立ての際に、スピーカー前面のネット部分を強く握らないでください。ネット内部がつぶれるおそれがあります。
- 脱落防止のため、必ず付属のネジを使用してスピーカーを組み立ててください。
- 誤飲防止のため、ネジはお子様の手の届かないところに保管してください。
- スピーカーがぐらつかないよう、ネジはしっかりと締めてください。
- 可動部のすきまには手を入れないでください。手をはさんでけがをすることがあります。
- トップ部分だけでの使用はできません。組み立てた状態でご使用ください。

※ ヒント

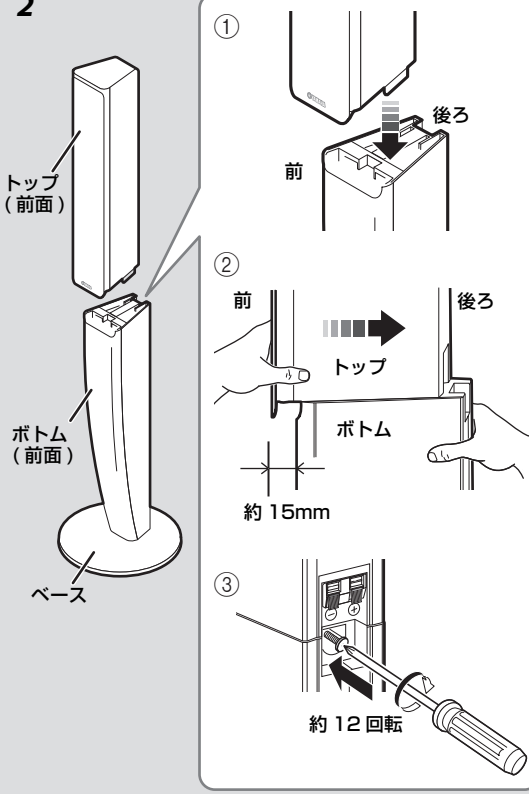
組み立ての際には、軸長 80mm 以上のプラスドライバーが必要です。



1



2

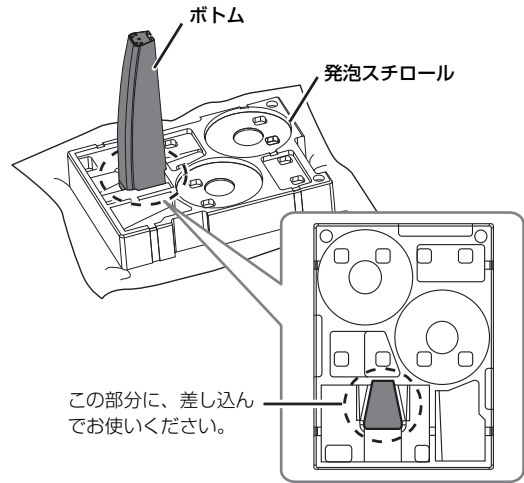


1 ボトムにベースを取り付ける。

- ① ボトム底面にある穴 (3箇所) に、ベースの突起 (3箇所) を合わせて差し込んでください。
その際、ベースのケーブル通し用の切欠きと、ボトム背面の向きが合っていることを確認してください。
- ② ベース裏面 (製品の底面) から、付属のネジ 4 個でボトムに固定します。ネジはまず交互に仮締めをして、その後しっかりと締めつけてください。

※ ヒント

ボトムにベースを取り付ける際、梱包箱から取り出した発泡スチロールを、組み立ての補助台としてお使いいただけます。



2 ボトムにトップを取り付けます。

- ① イラストのように、組み立てたベースとボトムを平らな場所に立ててください。
トップをボトムより約 15 mm くらい手前にずらしてのせてください。
- ② ボトムが動かないよう押さえたまま、後ろ側の止まる位置までトップをスライドさせます。
- ③ 付属のネジ 1 個でボトムとトップを固定します。
ネジは少しずつ締め、最後はしっかりと締めてください。(時計回りに約 12 回転で締まります。)

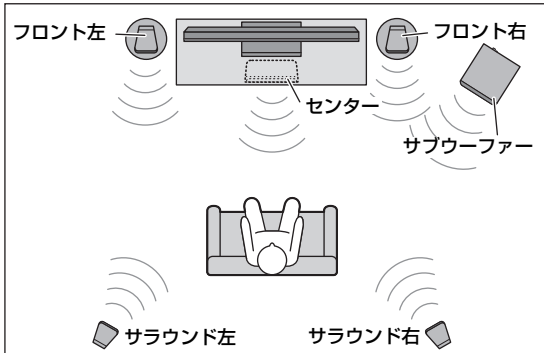
スピーカーの設置

スピーカーを接続する前に、各スピーカーを部屋に設置します。スピーカーの位置はシステム全体の音響に影響します。視聴位置で最適な音響が得られるように、各スピーカーを設置してください。右図のように設置すると、もっとも効果的な音場を得られます。

サブウーファーの重低音域には指向性がほとんど無いため、サブウーファーの位置は他のスピーカーほど重要ではありません。詳しくは「サブウーファーの設置」をご覧ください。

ご注意

- スピーカーのみでは音を出すことができません。AV アンプ（別売り）に接続してお使いください。
- スピーカーをブラウン管テレビの近くに設置すると画像の乱れや雑音が生じることがあります。そのような場合は、スピーカーとテレビを約 20cm 離してください。液晶テレビやプラズマテレビには影響しません。



フロント / センター / サラウンドスピーカーの設置

フロントスピーカー (NS-F40) : テレビの左右に、まっすぐ正面を向けて設置します。

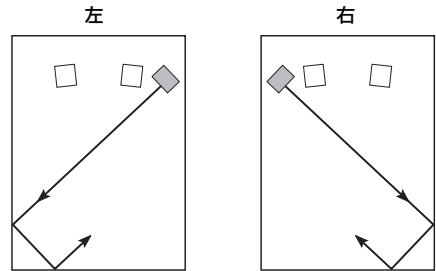
センタースピーカー (NS-C40) : 左右フロントスピーカーの真ん中に、まっすぐ正面を向けて設置します。

サラウンドスピーカー (NS-B40) : 視聴位置の左右後方に、少し内側に向けて設置します。フロントスピーカーとサラウンドスピーカーは、お部屋の状況に合わせて床や棚に置いたり、壁に掛けてご使用いただけます。壁に掛けて使用する場合は、「スピーカーを壁に掛ける場合」をご覧ください。

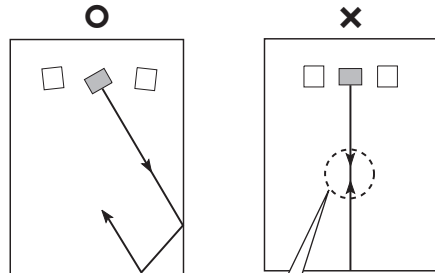
サブウーファーの設置

■ : サブウーファー □ : フロントスピーカー

フロントスピーカーの左右どちらかの外側に設置する場合



サブウーファーを真ん中に設置する場合



ご注意

定在波の影響で低音が聞こえにくいことがあります。

正面を向けて設置した場合、壁で反射した音とサブウーファーから出てきた音がぶつかり、打ち消し合ってしまうため、視聴位置（部屋の中心）で十分な低音効果が得られないことがあります。これは室内にできる定在波の影響です。これを避けるためには、サブウーファーを壁に対して少し斜めに向けると効果的です。

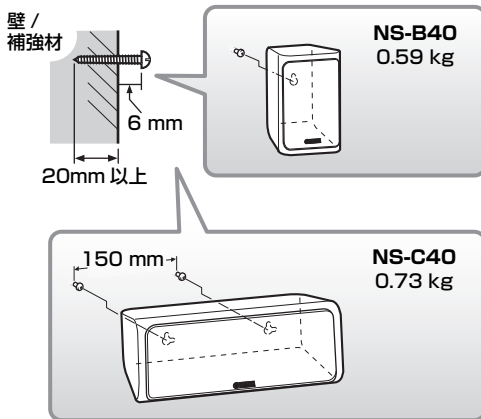
スピーカーを壁に掛ける場合

スピーカーを壁に掛けて使用することができます。

- 1 次ページの図のように、十分に強度のある壁または補強材に、2本のタッピングネジ（市販品、直径3.5～4mm）を取り付けます。
- 2 タッピングネジの頭にスピーカー背面の穴を掛けま

で注意

タッピングネジが、穴の狭い部分に確実に入っていることをご確認ください。



注意

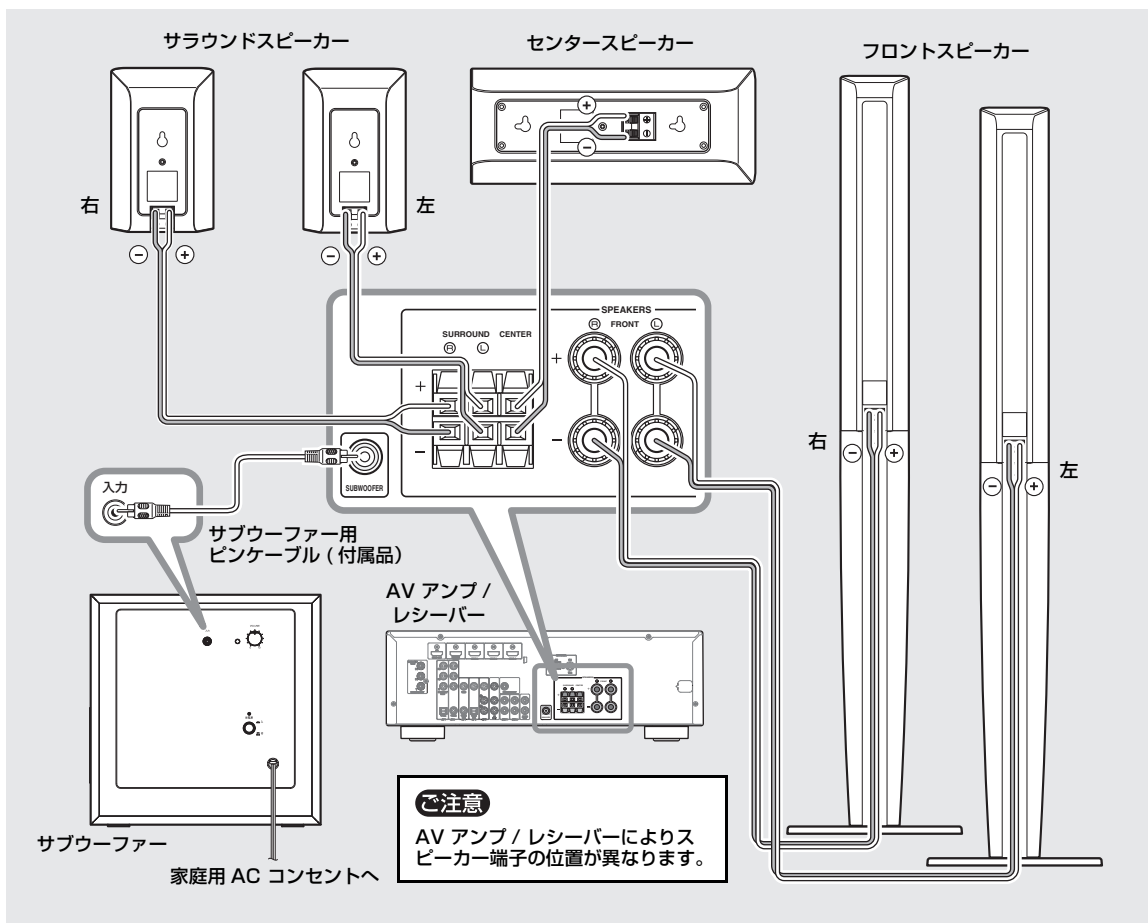
- モルタルや化粧ベニヤ板など、はがれやすい材質の壁には取り付けしないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下すると、スピーカーの故障、けがの原因になります。
- スピーカーを釘や両面テープなどで取り付けしないでください。長期の使用により、振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれてスピーカーが落下する危険性があります。
- スピーカーケーブルに手足を引っ掛けることのないように、ケーブルは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。安全性に不安がある場合は、専門の施工業者に取り付け工事をご依頼下さい。

接続のしかた

ご注意

すべての接続が完了するまで、サブウーファーおよび AV 機器の電源コードをコンセントに接続しないでください。

接続図

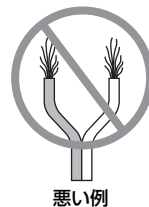
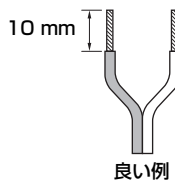


■ スピーカーケーブルの準備

スピーカーの設置が完了したら、付属のスピーカーケーブル (24.5m) をフロント左右、センター、サラウンド左右スピーカー接続用として用意します。

- 1 AV アンプ / レシーバー (以降は AV アンプと表記) から各スピーカーまでの配線を考慮のうえ、付属のスピーカーケーブルを 5 本に切断します。
- 2 スピーカーケーブル先端の絶縁部 (被覆) を 10mm ほどはがします。

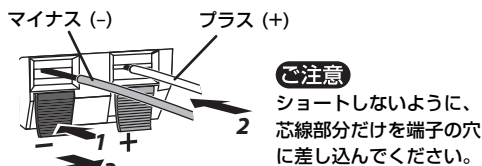
- 3 芯線をしっかりとよじます。



ご注意

- スピーカーケーブルはできるだけ短くしてください。たるみが生じても束ねたり巻いたりしないでください。
- スピーカーケーブルに手足を引っ掛けることのないようご注意ください。転倒してけがの原因になります。
- 芯線がバラけないように、しっかりとよじってください。
- スピーカーケーブルを準備する際、けがをしないようご注意ください。

■ スピーカー端子との接続



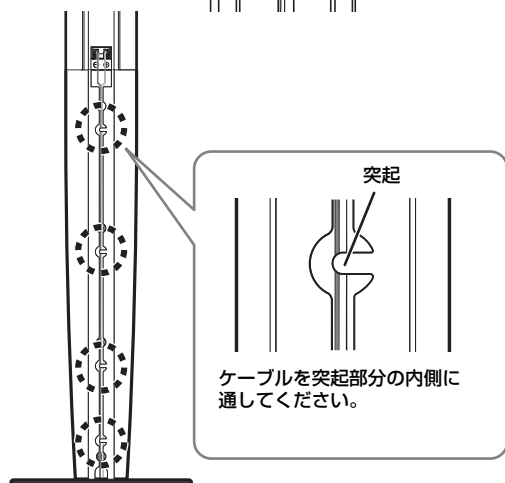
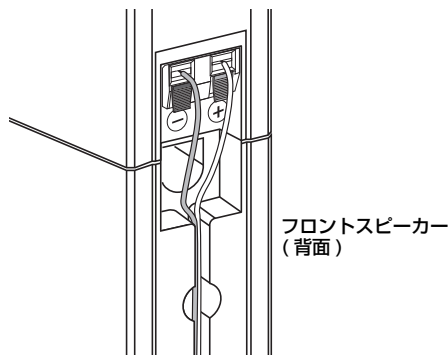
- 1 スピーカー端子のレバーを押し続けます。
- 2 穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込みます。
- 3 レバーから指を離し、芯線を固定します。
- 4 スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されていることを確認します。

【ご注意】

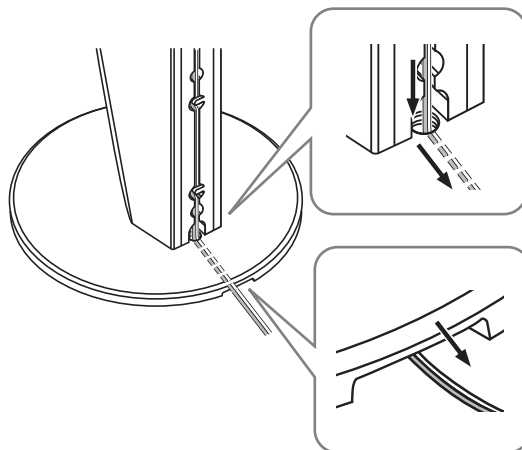
- 芯線どうしがショート（接触）しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、スピーカーや AV アンプをいためる原因になります。
- 正しく接続されていない場合、スピーカーから音が出ません。

■ フロントスピーカーについて

- 1 フロントスピーカーにスピーカーケーブルを接続したら、ボトム背面にある溝にスピーカーケーブルを収めてください。



- 2 スピーカーケーブルを溝に収めたら、ベースにある穴にケーブルを通します。ベースの下からケーブルを軽く引っ張ってたるみを取り、ベースの切欠きの溝からケーブルを出してください。



【ご注意】

- スピーカーの位置を変えるときは、必ずベースとボトム部分を持って移動させてください。
- ケーブルがベースの切り欠きの溝からはずれてしまう場合は、市販のテープなどでベースの裏側に固定してお使いください。
- スピーカーには決してお子様等が寄りかからないようにしてください。転倒してけがの原因になります。

■ AV アンプとの接続

「接続図」(P.10 ページ)を参考に、スピーカーに接続したケーブルを AV アンプの該当スピーカー端子に接続します。

必ずスピーカーと AV アンプのプラス (+) 端子どうし、マイナス (-) 端子どうしを接続してください。極性 (プラス / マイナス) を間違えて接続すると、音が不自然になったり、低音が出ないことがあります。AV アンプでスピーカーサイズを指定する際は、すべてのスピーカーを「小」(または「S」)に設定してください。

ヤマハ製 AV 機器に接続する場合は、サブウーファーを SUBWOOFER 出力端子に接続してください。

電源コードの接続

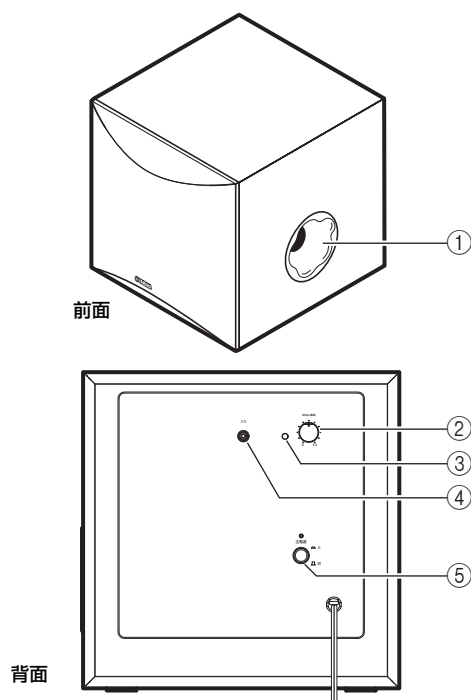
スピーカーおよびサブウーファーの接続がすべて完了したら、サブウーファー、AV アンプ、各 AV 機器の電源コードをコンセントに接続します。

【ご注意】

- オーディオシステムの電源を入れるときは、サブウーファーをいつも最後に入れてください。

お使いになる前に、本体の保護フィルムを剥がしてください。

サブウーファーの使いかた



① ツイステッド フレア ポート Twisted Flare Port

超低音域を出力します。

② ボリュームツマミ

本機の音量を調節するツマミです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

③ インジケーター

主電源スイッチを入れると緑色に点灯します。

④ 入力端子

アンプのサブウーファー出力端子またはアンプのライン出力端子（PRE OUT など）からの信号を入力する端子です。

⑤ 主電源スイッチ

スイッチを押すと、インジケーターが緑色に点灯し、電源が入ります。スイッチをもう一度押すと、インジケーターが消灯し、電源が切れます。

音量バランスの調節

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー（フロント）と本機の音が自然につながるように音量バランスを調節する必要があります。下記の手順に従って調節してください。

1 本機の音量（ボリューム）を最小（0）にします。

2 本機を除く各機器の電源を入れます。

3 本機の主電源スイッチを「入」にします。
※インジケーターが緑色に点灯します。

4 低音を含んでいるソースを再生し、フロントスピーカーの音量をアンプで調節します。
通常お聴きになる音量にします。
（トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。）

5 本機の音量（ボリューム）を徐々に上げ、フロントスピーカーとの音量バランスを調整します。
本機がないときよりも若干低音が聴こえるくらいに調整してください。



マルチチャンネルのホームシアターシステムでは、本機のボリュームツマミを中程度のレベルに設定するといいいでしょう。

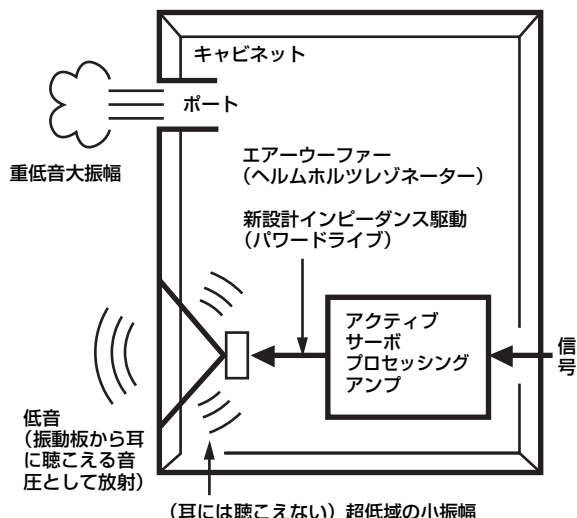


アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー ADVANCED YAMAHA ACTIVE SERVO TECHNOLOGY II

1988年、ヤマハは独自のYST (Yamaha Active Servo Technology) 方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーをダイレクトに近い状態で電氣的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールできます。

この技術は、アンプの負性駆動によりコントロールされたスピーカーユニット、そしてスピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を利用したもので、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー（エアウーファー）を生じさせるため、従来小さなキャビネットでは再生できなかったような低音が再生可能になりました。

ヤマハが新たに開発した Advanced YST II は、従来のYSTに数々の改良を加え、アンプとスピーカーの駆動をより理想的にコントロールするものです。アンプ側から見たスピーカーのインピーダンスは、周波数に応じて複雑に変動します。そこで、従来の負性駆動に定電流駆動を併用する新設計回路を開発しました。この回路の採用により、従来のAdvanced YSTにくらべ動作がより安定し、濁りのないクリアな低音再生が可能になりました。



ツイステッド フレア ポート Twisted Flare Port

今日のバスレフスピーカーには、ヘルムホルツ共鳴を利用し低音再生能力を向上させる方式が用いられています。

しかしながら、このヘルムホルツ共鳴する周波数付近の低音再生時にはポートを通してスピーカーの内部と外部の空気が激しく出入りするため、ポート端部では空気の流れが乱れ、ノイズが発生する場合があります。

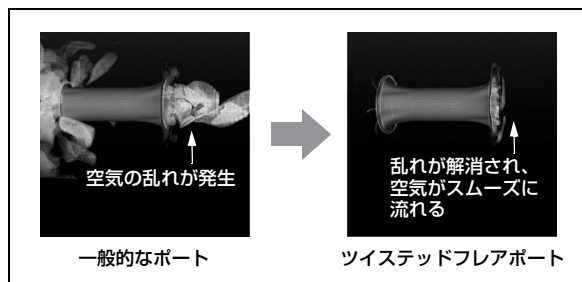
ポート、キャビネットはその寸法や形状によって決まった周波数で共鳴を起こします。

一方でポート端部の空気の流れの乱れは入力信号に含まれない広帯域の周波数成分が含まれます。

この広帯域の周波数成分の中でポート、キャビネットの共鳴周波数に一致した成分がそれらの音響共鳴を強く引き起こすため、このノイズが生じます。

ヤマハが開発した Twisted Flare Port は、ポート端に向かって広がり方を変え、更に「ひねり」を加えることでポート両端で生じる空気の流れの乱れを抑えてノイズの発生を防ぎます。

これにより、従来バスレフスピーカーの印象として言われていた、「濁った音」「風切り音がする」などの現象が大幅に減少し、クリアな低音の再生が可能となりました。



ノイズの原因となる、ポート端部の空気の乱れ

困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。
対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻頭の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

■ フロントスピーカー (NS-F40)、センタースピーカー (NS-C40)、サラウンドスピーカー (NS-B40)

症状	原因	対策
音が出ない。	音が小さい。	接続を確認してください。
音が小さい。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない（または不完全）。	左右や極性（プラス / マイナス）が間違っていないか、接続を確認してください。

■ サブウーファー (NS-SW050)

症状	原因	対策
主電源スイッチを「入」にしても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	いったん主電源スイッチを「切」にしてから、電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
音が出ない。	サブウーファーの音量が最小（0）になっている。	ボリュームツマミを右に回して音量を上げてください。
	サブウーファー用ピンケーブルが正しく接続されていない（または不完全）。	接続を確認してください。
低音が出ない、または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が多く含まれているソースを再生して確認してください。
	定在波の影響を受けている。	サブウーファーの設置場所や向きを変更してください。
音が途切れる	音量が大きすぎる	過大出力状態ですので、音量を下げてください。

仕様

■ フロントスピーカー (NS-F40) センタースピーカー (NS-C40) サラウンドスピーカー (NS-B40)

型式

NS-F40	2 ウェイバスレフ非防磁型
NS-C40	フルレンジ密閉非防磁型
NS-B40	フルレンジバスレフ非防磁型

スピーカーユニット

NS-F40	
ウーファー	7 cm コーン型 × 2
ツイーター	2.5 cm バランスドーム型
NS-C40	7 cm コーン型
NS-B40	7 cm コーン型

許容入力.....30 W

最大入力.....100 W

インピーダンス.....6 Ω

再生周波数帯域

NS-F40	67 Hz ~ 30 kHz (-10 dB) ~ 100 kHz (-30 dB)
NS-C40	70 Hz ~ 25 kHz (-10 dB) ~ 45 kHz (-30 dB)
NS-B40	50 Hz ~ 25 kHz (-10 dB) ~ 45 kHz (-30 dB)

出力音圧レベル

NS-F40	85 dB/2.83 V、1 m
NS-C40	84 dB/2.83 V、1 m
NS-B40	83 dB/2.83 V、1 m

外形寸法（幅 × 高さ × 奥行き）

NS-F40	230 × 1000 × 230 mm (ベース含む)
NS-C40	276 × 111 × 118 mm
NS-B40	112 × 176 × 116 mm

質量

NS-F40	2.8 kg
NS-C40	0.73 kg
NS-B40	0.59 kg

■ サブウーファー (NS-SW050)

型式.....アドバンスド・ヤマハ・アクティブ・
サーボ・テクノロジー II 方式

スピーカーユニット.....20 cm コーン非防磁型

アンプ出力 (100 Hz、5 Ω、10% T.H.D).....50 W

ダイナミックパワー.....100 W、5 Ω

再生周波数帯域.....28 Hz ~ 200 Hz

電源 / 電圧.....AC 100 V、50/60 Hz

消費電力.....30 W

外形寸法（幅 × 高さ × 奥行き）.....291 × 292 × 341 mm

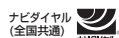
質量.....8.5 kg

※ この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードして読みただけですようお願いいたします。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口



0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

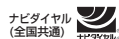
上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

- **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。
- **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。
- **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
- **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Yamaha Global Site
<https://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads
<http://download.yamaha.com/>

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation

2018年 6月発行 IPEI-A0

YAMAHA CORPORATION

10-1 Nakazawa-cho, Naka-ku, Hamamatsu, 430-8650 Japan

VAS0210